

## ダニエル書 (BC540頃～530頃、著者：ダニエル) — 黙示文学の先駆け

バビロニアの王ネブカドネツアルとベルシャツアル、メディア人ダレイオスの治世を舞台とする六つの話 諸外国で生活続けるユダヤ人（ディアスポラ：散在のユダヤ人）が権力にこびず、異教の慣習に染まらず、唯一の神への信仰に生きることを教える			
宮廷での歴史的な出来事	バビロンの宮廷でのダニエル	1: 1～ 1:21	ダニエルとユダ出身の三人の青年たちが肉食と飲酒を避け、野菜と水だけで健康を保たれた。
	巨大な像の夢(ネブカドネツアルの幻)	2: 1～ 2:49 <small>(アラム語2: 4～7: 28)</small>	ダニエルは二度にわたってネブカドネツアル王の夢を解き、ベルシャツアル王の前に現れた指で壁に書かれた文字を読み解いた。
	大きな木の夢(ネブカドネツアルへの裁き)	3:31～ 4:34	※ネブカドネツアル王 (出生: BC634、死去: BC562、在位: BC605～562)
	壁に字を書く指の幻(ベルシャツアルへの裁き)	5: 1～ 5:30	※ベルシャツアル王 (バビロニア帝国最後の王ナボニドスの子、出生: ?、死去: 539?)
	燃え盛る炉に投げ込まれた三人 →神がダニエルの友人たちを救出される	3: 1～ 3:30	三人の青年が燃え盛る炉に、ダニエルがライオンの穴に投げ込まれても、無傷だった。 ※メディア人ダレイオス王 (6: 1) の時代
	獅子の洞窟に投げ込まれたダニエル →神がダニエルを救出される	6: 1～ 6:29	※ペルシア帝国ダレイオス1世 (出生: BC550頃、死去: BC486、在位: BC522～486) ※ネブカドネツアル王とダレイオス1世の間には80年以上の時代の差があり、ダニエルが両者に仕えることなどありえない。
ダニエルが見た幻とその意味が天使ガブリエルによって明らかにされる			
啓示された終末の預言	四頭の獣の幻	7: 1～ 7:28	ダニエルが見た幻 (四頭の獣) とその意味が天使ガブリエルによって明らかにされる。
	雄羊と雄山羊の幻	8: 1～ 8:27	ダニエルが見た幻 (雄羊と雄山羊) とその意味が天使ガブリエルによって明らかにされる。
	定め七十週	9: 1～ 9:27	天使ガブリエルが「憎むべきもの」がこの地に荒廃をもたらすことをダニエルに告げる。
	終わりの時についての幻	10: 1～12:13	大天使長ミカエルが現れ (10章)、ペルシア帝国からギリシア王朝への移行、「北の王」の冒瀆的行為とその末期を告げ (11章)、終わりの時の救済の秘儀を知らせる (12章)。

▶幻や天使による啓示は、いずれも、自らを「現人神 (あらひとがみ)」(エピファネース：顕現者) と呼び、反ユダヤ政策を実行 (パレスチナをBC175年から164年まで支配) したセレウコス朝のアンティオコス4世エピファネス (在位: BC175～164/3) に焦点をあてている。「憎むべき者」「北の王」もこのアンティオコス4世を指している。ユダヤ側の軍事蜂起とセレウコス軍との戦いを「マカバイ (マカベア) 戦争」(BC167) と呼んでいるが、ダニエル書の最終章には、この戦いで命を落とした人々について、彼らは目覚めて永遠の生命に入り、「大空の光のように輝き」「とこしえに星と輝く」と復活の希望が美しく詠われている (ダニエル書12: 2～3)。

→多くの者が地の塵の中の眠りから目覚める。ある者は永遠の生命に入り／ある者は永久に続く恥と憎悪的となる。目覚めた人々は大空の光のように輝き／多くの者の救いとなった人々は／とこしえに星と輝く (ダニエル書12: 2～3)。

▶ダニエル書後半 (記述) は、悪の勢力が滅ぼされる世界の終末を描き出すユダヤ教、キリスト教の黙示文学の先駆けとなった。

▶ダニエルはキュロス王の元年まで仕えた (ダニエル書1: 21)

▶こうしてダニエルは、(メディア人)ダレイオスとペルシアのキュロスの治世を通して活躍した (ダニエル書6: 29)。

→ペルシア帝国ダレイオス1世 (出生: BC550、死去: BC486、在位: BC522～486) ②ダニエル書のメディア人ダレイオスとは異なる人物と思われる。

→ペルシア初代国王キュロス2世 (出生: 600?、死去: 530、在位: BC559～530)

} 矛盾?